

# 楽しい学び **de** クラスをつくる

Vol.06



大滝 文平

**「取材へGO!」** 子どもがワクワク学ぶ取材のエッセンスがいっぱいです!



## ..... 取材は楽しい!? .....

- 「〇〇さんのお米作り」(5年)
- 「戦後の暮らしについて〇〇さんに聞いてみよう」(6年)
- 「和菓子屋さん〇〇の工夫」(3年)
- 「〇〇焼きの職人さんの願い」(4年)

など、単元名に携わる人の名前やその地で盛んな産業名などが書かれていると、「きっと取材をして構想した開発單元だろうな、すごいな」と思ったものです。

「どうやって取材の場所を決めたのだろう?」「どうやってインタビューできる人と出会ったの?」「インタビューってどうやってするの?」「取材したことをどうやって単元化すればいい?」、取材に関するたくさんの「?」が浮かんできます。なかなかハードルが高そうです。このマンガのように、私(大滝)が初任者のときに、「やるぞ!」と思って箱根に取材に行ったことが思い出されます。この後、1年目の私はどのような失敗をして、そして失敗から何を学んだのか……。

というわけで、Vol.06は、特集「取材!」～取材の進め方や取材したことを「子どもの学び」へつなげる～です。今回からページもボリュームアップ! 新コーナーも続々登場! **まずは、次ページでマンガの②コマ目から! 取材へGO!**

日本文教出版のWebサイト

日文



vol.06 は!

取材のコツや取材を通じた  
学びづくりのエッセンスが  
いっぱい!



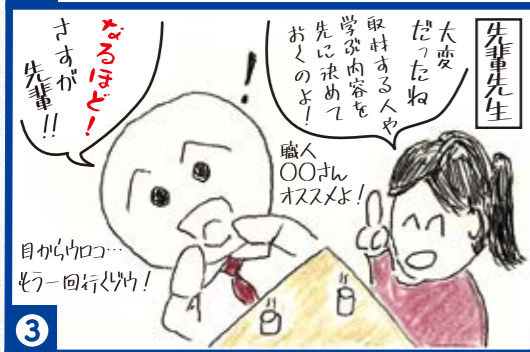
心が動く、その先へ。

日本文教出版



# 4コママンガ “初”取材!

作・絵/大滝文平



私は可能な限り複数人で行くようにしています。インタビュー動画を撮るときなど、私が写っていることで「先生、行ってきたの!」と、子どもが嬉しそうに驚く姿が見えてきます。また、同行する人によって取材対象の見方・感じ方に違いが出ることで単元構想が多角的に広がることもあるでしょう。



## STEP 2 取材先の見つけ方

もちろん、学年や単元によって違いはありますが、3・4年生の身近な場所を扱う場合は、その学校で扱ってきた材があると思います。まずは、そこを取材するのもいいですね。実際に見ることで、学習の構想が浮かんでくるかもしれません。また、日頃から地域に関心を持つことで、「あっ、これ授業で扱ったら楽しいかも!」と、取材のアンテナが鍛えられていくでしょう。

高学年になると取材先も遠方になることもあります。同僚の先輩からの情報やインターネットなどで事前に調べることが考えられます。もし、現地でのインタビューを考えているのであれば、事前に電話で取材の申し込みをしておくことをオススメします。ある程度の取材内容を伝え、OKがもらえたら、安心して行くことができます。

※後述の取材体験(P.3)をぜひ参考にしてください。

## STEP 3 取材前の教材研究 (特に大事!)

繰り返し行くことが可能な場合は「まず、行ってみる!」でもいいですが、取材は時間との闘いになることが多いです。取材の対象が携わる「人」ならば、時間をかけ過ぎてしまうと迷惑にもなります。だからこそ、

- ① 指導要領の学ぶ事項を理解しておく。
- ② 中心となる学習場面をある程度想定する。
- ③ これは必ず聞きたい! 見たい! を決める。

特に①は大切です。「あっ、これは指導要領の〇〇に当てはまるから使える」「この事象は面白いけど学ぶべきことではないな」など、取材を

# 「取材へGO!」 STEP UPで取材力UP!

## STEP 1 取材へ同行

一人で取材に行くのは心細く感じるかもしれませんが。担当学年が同じ先輩など、取材慣れた方と一緒に行くのがオススメです。

社会科の研究会などが主催する、現地取材の研修会ほかに参加する方法もあります。

しながら取り上げるポイントが押さえられることで、だんだんと単元の構想や学習問題などが見えてきます。

②を押さえておくことで、取材時にインタビューの内容が見えてきます。「これからのわが国の農業について考える学習にしたい」という構想があれば、「後継者はどうするおつもりですか?」「これからの農業の新しい取り組みはありますか?」などの質問が自然と出てくることでしょう。

③は、あなたの社会的な見方・考え方を一層高めることができるチャンスです!取材先の社会的な事象について、「このことを聞きたい、知りたい」という自分なりの考えを持って取材を進めることで、教師自身が主体的に問題解決的な学びを実践することになるでしょう。そんな取材を通して教師が「教材に惚れる」ことが、子どもの心に伝わり、子どもの豊かな学びに直結します!これが取材の持つ最大の魅力ではないでしょうか。

マンガの2コマ目のような事態にならないために、この3点を事前に!



## STEP 4 「人」の思いに触れたとき ~取材からの脱却?~

取材先でのインタビューを通して、その人の「思い」に迫ったとき、「この人を通してこんな単元をつくりたい」という構想がより具体的に見えてくることでしょう。

「どのようにして〇〇さんは安定した商品をつくりたいのか」「なぜ、〇〇さんは▲▲のやり方で農業を続けているのだろうか」など、取材をしたからこそ、子どもと学びたい学習問題が見えてきます。これが、「取材したことを単元に活かす」ことにつながります。

経験の浅い頃は取材に行っても何もできず、人と会っても緊張から何を聞いていいのかわからずという状況だった私ですが、今や「取材」と



いうより、「〇〇さんに会いに行く(話したい)」という感覚です。最後にいくつかの取材体験記を紹介します。

# 私の取材体験談!

## 3年生 「私たちのまちの生産」

◎まちのパン屋さん ○さん夫妻

地域に新しくできたパン屋さん。「地域に密着したパン屋を目指したい」との思いを聞き、早朝3時からパンづくりを行う様子を取材させてもらう。子どもたちの放課後取材が行き過ぎて、困らせてしまった思い出も!

早朝3時から!



## 4年生 「県内の特色ある地域」

◎箱根寄木細工職人 Yさん

先輩から紹介してもらう。はじめは何も聞けなかったが、生い立ちなどを聞いて、Yさんのヒストリーをまとめ、実際に本人に読んでいただくと「なるほど、よく書いてくれたね」と褒めてくださった。ここから、何度も取材に行くようになる。



## 5年生 「わが国の水産業の様子」

◎底引き網漁師 Kさん

Kさんが出演したテレビのVTRを見て、「この人の今を取材したい」と思い、漁協に電話して紹介してもらう。漁獲量が激減する中で今の思いを聞き出そうと、1時間近くのインタビューを試みたことも。漁にも同行させていただいた。



漁にも同行!

他にもいっぱいお世話になった方がいます。社会科だけでなく、総合的な学習の時間や生活科などでも出会うことができました。そして子どもの生きた学びへとつながりました。だからこそ取材はやめられない!次ページからは「取材」を通して具体的に単元化した実践です。

(横浜市立箕輪小学校 大滝 文平)





# 取材したことから単元の指導計画をつかって 子どもたちの学習を深めよう

5年生 9月実施

単元名 「水産業のさかな地域」

～持続可能なカツオ魚を目指して～

〈実践者〉横浜市立港南台第三小学校 山本 雅也

## Scene 1 取材に取り組む前に

今回は水産業の単元を基に実践を紹介させていただきます。

取材をする前に、取り組むことはたくさんあります。

まずは教科書を読み、単元をつくる「ヒント」を見つけます。教科書に載っていた「海のエコラベル(MSC認証)」がとても印象的でした。また、学習指導要領には「持続可能な漁業を目指し水産資源を保護していること」という記述があります。

本校の子どもたちは、SDGsへの関心が高く、「海のエコラベル」を取り上げることで、水産業の学習に興味を持って学習に取り組むことができるのではないかと考えました。

### 取材を学習に生かすためのポイント①

教科書と学習指導要領を読み、子どもの実態を見取って、学習の構想を考えよう。

単元の中心を「持続可能な漁業」に決め、インターネットで「海のエコラベル」について調べました。日本国内でも多くの会社が取得していることがわかりました。ここで、子どもたちに出合わせる「材」として何を上げるかを吟味します。

今回、水産会社のI会社を取り上げたのは、以下の二つの意図があったからです。

①漁獲高が日本一の「焼津」に会社があること

②カツオは魚肉を食べるだけでなく、出汁として利用されているなど、食生活に欠かせないものであること



このように、事例を決める際に、選定の意図を明確にしておく、その後の取材や単元構成に大いに役立ちます。

### 取材を学習に生かすためのポイント②

事例は意図を持って選ばう。

## Scene 2 取材の交渉をしよう

事例候補を決めたら、取材の許可や授業で取り扱うことなどを取材先と確認する必要があります。いきなり電話をするのは緊張しますので、事前にいくつかの準備をします。



①挨拶文

②授業で取り上げることの承諾

③単元の簡単な構想 ～子どもに何を学んでほしいか

④取材に何う日程の候補(複数日)

授業で取り上げることを承諾していただかないと、話は聞けたが授業で使えない、そもそも取り扱いができないということになるので、具体的な話の前に許諾を得ることが大切です。

## Scene 3 取材の前に取材メモをつくらう

取材の前に、単元計画や聞きたいことをまとめておく、取材を効率的に行うことができます。

### 【最初の単元計画】

- 1 どのくらい魚を食べているのだろう。
- 2 日本で漁業が盛んな地域はどこだろう。
- 3 どのように魚を獲っているのだろう。
- 4 日本の漁獲量だけで足りない分はどうしているのだろう。
- 5 新鮮な魚を届けるためにどんな工夫をしているのだろう。
- 6 「海のエコラベル」について調べよう。
- 7 MSC認証を獲得したI会社の取り組みについて調べよう。
- 8 一本釣りの良さについて考えよう。

- 9 一本釣りだけでなく巻き網でもMSC認証を取得したのはどうしてだろう。
- 10 「海のエコラベル」のついた商品を買ったことがあるのだろうか。

### 【取材で聞きたいこと】

- ・ MSC認証の日本の現状
- ・ どうしてMSC認証を取得したのか
- ・ 一本釣りで獲っている量と巻き網で獲っている量
- ・ 一本釣りで獲るカツオの大きさ
- ・ 一本釣りや巻き網のカツオの使われ方
- ・ 一本釣りで獲ったカツオでかつお節をつくといくらになるか
- ・ 同じ大きさのカツオでMSC認証があるものと無いものの値段の違い
- ・ 巻き網漁の取り決めはあるのか
- ・ 巻き網の漁の工夫(漁具や入ってしまった小さい魚やカツオ以外の魚の扱い)

事前に聞きたいことを整理しておくことで、質問することが具体的にになります。また、取材では、聞きたいこと以外にもたくさんのことを教えてくれます。教えていただいたことを基に単元の学習計画を具体的にしていきます。

### 取材を学習に生かすためのポイント③

取材メモをつかって、聞きたい質問を逃さないようにしましょう。

## Scene 4-1 取材したことから単元の計画を考えよう

取材を通して、I会社の「持続可能な漁業への思い」について知ることができました。

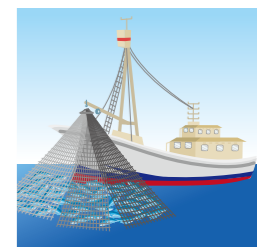
### 〈一本釣り漁〉

- ・ 環境に配慮した獲り方であること
- ・ 生きたまま冷凍できるので、新鮮なこと
- ・ 高い値段で売れること
- ・ 一度に多くの量を獲ることができないこと
- ・ 主に生食用で取引されること



### 〈巻き網漁〉

- ・ 小さなカツオやカツオ以外の魚も獲ってしまうこと
- ・ 一本釣りに比べて鮮度が下がること
- ・ 値段が安いこと
- ・ 一度にたくさんの量を獲ることができること
- ・ 主に加工品として取引されること



取材を通して、I会社は、どちらかの獲り方で漁を進めていくのではなく、どちらの獲り方も環境に配慮した持続可能な漁業にしたいと考えていることがわかりました。そこで、子どもたちが、一本釣り漁と巻き網漁を比較しながらメリット・デメリットを考え、I会社の思いに迫ることができる授業を設定しようと計画しました。



## Scene 4-2 単元構想図をつかって、単元の具体的な計画を立てよう

大まかな単元計画が決まったので、導入や学習展開、まとめなど単元の具体を考えます。

本単元では、大きな四つの学習のまとまりを考えました。

日本の水産業に関する問いを持ち、学習の見通しを立てる。

学習計画を基に具体的に調べたり、考えたりする。

これまでの学習をふり返り、新たな問いを追究する。

これからの日本の水産業の発展について考える。

それを具体的にした単元構想図が次のページに示したものです。





〈資料1:単元構想図「水産業のさかなな地域」〉

### Scene 4-3 取材したことを基に資料をつくらう

今回の実践では、一本釣り漁と巻き網漁の比較をしたかったので、P.7の〈資料2〉を作成しました。実際に取材のときにわかったものもありましたが、この資料を作成するために、改めてメールを利用して取材を行いました。

すると、「写真があった方がわかりやすいな」とI会社の方からも言ってもらい、「追加資料がありますよ」「こんなことも資料になるんじゃないか」などのありがたい情報をたくさんもらうことができました。

そこで、この資料だけでなく、漁船や獲れたカツオの写真、漁の様子の動画など、子どもたちが考えるためのヒントになりそうなものを資料として準備することができました。

#### 取材を学習に生かすためのポイント④

つくりたい資料のイメージを取材先と共有しよう。

### Scene 4-4 資料を作成したら、間違いがないか確かめてもらおう

授業で使う資料ができたなら、取材先に内容を確認してもらうようにしています。資料は取材先の確認を得てから使うようにしています。



#### 取材を学習に生かすためのポイント⑤

授業で使う資料は、取材先に確認してもらってから使おう。

### Scene 5 準備を整えたら、実践しよう

実際に学習がはじまり、学習を進めていくと、

- ・ たくさんの魚を消費している。
- ・ 輸入に頼っている。
- ・ さんがとれなくなってきているって聞いたことがある。



子どもがこのような感想を持ちはじめました。

そこで、第5時に、I会社の一本釣りの取り組みについて紹介しました。MSC認証を取得したことを知り、一本釣りの漁の仕方を調べたり、動画を見たりすることで、

- ・ 環境のことを考えた漁に取り組んでいる。
- ・ カツオだけを獲っているので、他の魚に影響がない。
- ・ すごくたくさん獲れているので、この獲り方を続けるといいと思う。

といった考えを持つ子どもが多くいました。

子どもたちは、動画を見て、簡単に釣り上げているように感じていました。そこで、「釣り上げるカツオは2kgある」と取材で聞いていたので、2kgのペットボトルを竿に見立てた道具を使って、持ち上げる体験を行いました。



#### 取材を学習に生かすためのポイント⑥

児童の実態に合わせて、指導計画を修正しながら実践を進めよう。

釣り上げる人は大変だが、環境面を考えると一本釣り漁を続けてほしいと考えている児童が多く出てきました。そこで、I会社は巻き網漁にも取り組んでいることを紹介すると、最初は、「えー！」や「何で？」などの声があがりました。その後の話し合いから、



- ・ 巻き網漁だと、網の中の魚を種類に関係なく獲ってしまうんじゃないのかな。
- ・ どうして一本釣り漁だけじゃだめなのかな。
- ・ 一本釣りにもデメリットがあるんじゃないかな。
- ・ 一本釣り漁と巻き網漁のメリット・デメリットを調べたい。

と学習の流れが進むこととなり、第7時の学習問題が、以下のようにになりました。

#### 学習問題

どうしてI会社は、一本釣り漁だけでなく、巻き網漁にも取り組んでいるのだろう。

比較のために作成した資料から、考えたことや調べたことをまとめる時間をとり、第7時を迎えました。

一本釣り漁	船の大きさ	巻き網漁
499トン		800トン
多いときで2回	1日に漁を行う回数	多いときで4回
10～20分	1回の漁にかかる時間	4～5時間
10トン	1度の漁に出ている間に獲れる魚の量	30～40トン
5億円	年間の水揚げ金額	10億円

〈資料2:一本釣り漁と巻き網漁の比較〉

第7時の学習は、以下のように展開しました。

学習問題の解決に向けて、一本釣り漁と巻き網漁のメリットとデメリットを出し合う。

違いはわかったが、巻き網漁に取り組んでいる理由に迫れなかったため資料を提示しました。

一本釣り漁と巻き網漁の漁獲量の違いを確かめる。

一本釣り漁と巻き網漁で獲ったカツオでカツオ節をつくったときの金額の違いを確かめる。

資料提示によって、児童は、

- ・ 一本釣り漁だけでは、漁獲量が全然足りない。
- ・ 一本釣り漁のカツオだとカツオ節やめんつゆなどの加工品の価格が上がってしまう。
- ・ このままでは、給食が食べられなくなってしまいます。

など、巻き網漁で獲ったカツオが生活を支えていることがわかりました。そして、

- ・ 巻き網漁の環境に配慮した取り組みについて考えたい。



と、自分たちでアイデアを考えて、話し合いを行いました。

### Scene 6 単元を終えたら、授業の報告をしよう

第7時の後、一人の児童から、

学習の最初に給食の献立を見て、カツオやイワシといった魚だけでなく、「出汁」を知っていたのが今日の授業につながっていたんだね。

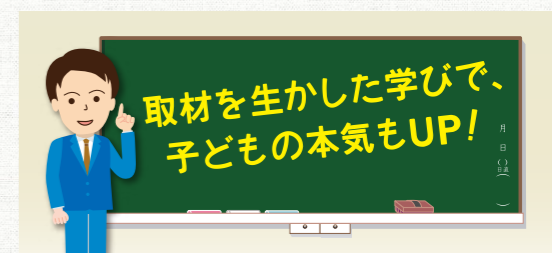
学習の導入時のことをふり返ったうれしい子どもの姿が見られました。

また、買い物に行った子どもが、MSC認証以外にもASC認証があることを教えてくれたり、漁業以外にも、FSC認証やレインフォレスト・アライアンス認証などの認証マークを調べて紹介してくれたりする子どももいました。

単元を終えた後には、児童のふり返りなどをまとめます。そして、取材をさせていただいた方に授業の様子ばかりでなく、感謝の気持ちも伝えるようにしています。

#### 取材を学習に生かすためのポイント⑦

終了後には、お礼と授業の様子を伝えよう。今後につながるために大切です。





# 「愛のチョークで引田が斬る！」

(横浜市立中山小学校 引田 雄士)

今回は取材の進め方や、取材を生かして子どもと一緒に単元をつくっていくことについて、山本氏に実践を通して伝えていただいた！単元づくりには、どんどん生かせそうじゃ！しか～し！きっと苦労や失敗だってあったはず。というわけで、「愛のチョーク、見参！」



## シャキーン！ 愛のチョーク！取材でうまくいかないときがあったら教えてくれ！



●ハハハ、あります、あります。実は、話が盛り上がっちゃって……。

取材をしていると知らないこともあるので、話を聞くうちに楽しくなってきます。そうすると、取材したかった内容から逸脱してしまうことも。また、たくさん話をしていたのに、授業で使える内容をあまり得られなかったこともありました。仕方なく、もう一度(電話で)取材したこともありました。

●メモをするのが追いつかないことも……。

話を聞きながらメモを取っていると、しっかりと記録ができず、後から見返したときに、重要な部分をはっきり思い出せなかったことがありました。録音しながらの取材もしましたが、どの辺りで話が出たかがわからなくなり、何度も聞き直すということもありました。できれば取材にはなるべく一人では行かずに、記録してもらおう方と一緒にいくようにした方がいいと思います。



山本氏でも、失敗が成功につながったのじゃな！それでも、繰り返し取材をする、複数の人数で行くことなど、次に生かしているのだな！とにかく、どんどん取材にチャレンジすることが大事じゃと実感した！

## シャキーン！ 愛のチョーク！取材したことって、ちゃんと子どもに伝わっているのか？

●ドキッ！伝えるって難しい、そのために……。

一本釣りの漁の写真や動画を活用して、さらに、「釣り上げるカツオは2kgもある」ということを伝えることで、子どもが漁の様子を捉えられると思っていました。しかし、感想を聞いていると、「どんどん釣れていてすごい」や「一本釣りだと簡単に釣り上げることができるんだね」というような印象を持つ子どもが多くいました。重さへの実感が伝わっていないと感じたので、一本釣りを実際に体験する学習を設定しました。釣り竿に見立てたものに、2kgのペットボトルをぶら下げて持ち上げる体験をさせたのです。

取材したことをどのように子どもに伝えるかが本当に大切だと考えています。動画や写真だけでなく、体験することで理解が深まったように感じました。



なるほど、取材したことを提示したからといって、それがすべて伝わるわけではないんだな。だからこそ、子どもの学ぶ姿を見取って手立てを講じていく、それが子どもの主体的な学びにつながるのじゃな！

今回も斬ることができなかった！無念！それでは御免！

MASAYA presents

Masaya

# 僕も、 Masaya 僕以外も。

社会科の学習をより良くしたいと思っているのは、僕も僕以外のみなさんもきっと持っている気持ちだと思います。

このページでは、そんなみなさんに社会科の学習について考える一助になればと思っています。一緒に社会科の学習について考えていきましょう。

横浜市立港南台第三小学校 山本 雅也



今回のテーマ

## 取材について



みなさんは取材についてどのようなイメージを持っていますか。

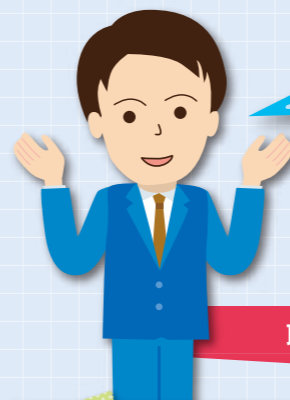
どうやって取材先を見つけたいのか  
わからない。



教科書があるのに、  
どうして取材をしないと  
いけないのか？



取材に行く  
時間がとれない。



忙しい校務の中で、社会科の取材(教材研究)に使うことができる時間はどのくらいありますか？子どもたちと楽しい授業をするためにも、無理をしすぎることなく、取材したことを基に授業を組み立ていけるといいですね。

### そこで

取材について、三つのことをお伝えしたいと思います。

presents  
1

### まずは身近な単元から！

今回の実践(P.4~7)は5年生について紹介しましたが、3年生の販売や生産の単元、4年生の県の学習などは、見学先を見つけたり、取り上げる場所を決めたりするうえで、交渉や取材が必要になると思います。いきなり県外の事例ではなく、身近な場所の取材からはじめてみてはどうでしょうか。繰り返し行きやすいのもメリットですよ。

presents  
2

### 取材をより楽しく！

今回の実践では、静岡県焼津市に行きました。焼津港は、マグロが有名ですよ。おいしいマグロが食べられる店や有名な店を調べて、取材を終えた後、楽しくおいしい時間を過ごしました。また、学年や社会科に興味のある先生にも声をかけて一緒に出かけました。運動会の代休等を利用して取材に行くことで、業務に影響が出ることなく、ちょっとした旅行気分で行けることができます。



presents  
3

### 取材先といつまでも仲良く！

取材先が店舗や生産者の場合は、その商品を購入したり、企業やNPO団体の場合は、その取り組みに関心を持って協力したりすることで、取材先の人といつまでも仲良くなることもあります。すると、取材がさらに楽しくなります。



# 社会の中心で石川が大きく叫ぶ!



横浜市立日枝小学校 石川 和之

す。しかし一方で、「子どもに学びをゆだねる」という言葉が、今までいろいろと積み上げてきた先生方や研究会の努力や経験を否定するように捉えられ、先生方や研究会の自信を少なからず失わせてしまっているようにも感じます。

私自身も、「どうやったら子どもに学びをゆだねられるのか」と考えていますが、「そのためには先生たちや研究会のチカラが必要だ!」と思っています。学級経営力も教材研究力も、ICTに関するスキルも、教師自身の人間性も、一人ひとりの先生たちが積み上げてきた技術や魅力が必要です。そうしなければ、子どもに学びをゆだねたときに、一人ひとりの学びを見取り、価値づけることはできないからです。



「子どもに学びをゆだねる」ためには、一斉授業だけではなく、学習環境を変えていったり、ICTを活用したりすることは必要です。しかし、それはあくまでも手段です。また、様々な子どもの学びを促進するためにも、今までの方法に固執せず柔軟性も必要です。「〇〇は意味がない」「流行りに流されないようにすべきだ」と頑なに思わず、できる範囲で、いろいろなやり方を模索していきたいと思います。

目の前の子どものことを一番知っていて、学びや生活の文脈も一番知っている私たち教師だからこそ、どのように学びを子どもにゆだねていけるのか。そのポイントを叫びます。

## 今日の叫び 学びを子どもにゆだねちゃえ!

どんどん、どんどん、ゆだねちゃえ! そんな学びを目指す今だからこそ、先生たちのチカラ、研究会のチカラが、いまこそ必要だ!!

コロナ禍での臨時休校が始まった2020(令和2)年3月2日。そこからの数か月間、各教育委員会や学校単位で様々な手立てがとられました。次第にオンラインでの授業も模索されはじめはしましたが、その多くは「大量のプリント学習」だったかと思えます。つまり、漢字や計算ドリル、音読といった、それまでの宿題の延長線上にあるものがほとんどで、それまで授業で取り組んできた「子どもが問いを見出し、追究していく学び」を、個々人の自宅学習でできる子どもたちに育てられていたかというところではなく、私たちは反省させられっぱなし……というのが現状ではないでしょうか。

「子ども自身が問題解決的な学習のプロセスを進められるよう」にしていきたい。そのためにはやはり、私たち教師がいつまでも**子どもの学びの多くをコントロールしてはいけ**ない、**学びそのものを、どんどん子どもにゆだねていきたい、そう思うのです。**



「すべての子どもは生まれながらにして有能な学び手であり、教師が教えなければ子どもは学ばないし、学ぶことはできない」といった誤った思い込みを払拭することが今まさに求められているということを疑う現場の教師は、ほとんどいないと思いま

## 叫び1 単元全体で学ぶ(解決する)見通しを、子ども自身が持つようにする!

単元導入時の「社会的事象との出会い」で意図的な出会いを教師が仕掛けます。その出会いから生まれる学習問題は、子ども自身が持つ疑問からつくられるようにしていきます。

その学習問題に対する予想をいくつか考え、その予想は本当にそうなのかどうか検証するための学習計画を立てます。おそらく、調べ方や調べるのに費やす時間等を鑑みて簡単にわかりやすいような問いから学習計画を立てていくことになるでしょう。

## 叫び2 一つひとつの問いについて調べを進める中で、「わかったこと」と「まだわからないこと」を明確にする。それこそ「新たな問い見つけ」!

「わかったこと」が積み重なっていくのと同時に、次第にわかってきたように感じる中でも「どうしてもわからない」「納得がいかない」「どういうことなんだろう」という「わからないこと」が明確になってきます。つまり、学習計画を立てたときには設定できなかった「新たな問い見つけ」です。

この「新たな問い」を見つけられるか、見つけれないかは、学びを深められるかどうか非常に重要に関わってきます。次第に、子ども自身でこの問いを見つけられるように、私たちは子どもたちを鍛えていくのです。



この問いさえ見つけられれば、子どもの学習意欲はかなり持続されますし、何よりも協働的に学ぶことを欲するようになります。そして単元の出口では必ず、単元の学び全体をふり返り、次の単元学習に生かせるような「学んだ知識や学習方法」を蓄積させていきます。この学習過程を図にすると、次のようになります。



(3年生「市の移り変わり」実践より)

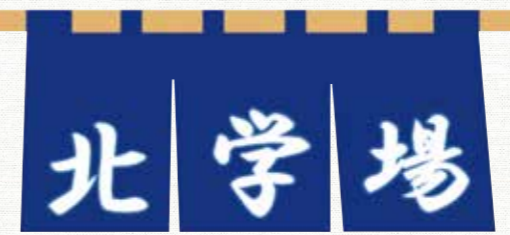
## 叫び3 学習過程(問題解決的な学習のプロセス)をシンプルにする!

目指す先は、「いずれは子ども自身で問題解決的な学習のプロセスを進めることができるようにすること」です。だからこそ、図を見てもわかるように学習過程は至ってシンプルにします。小学3～6年生の子どもでも自分で学びを見通せるように整理するのが教師の役割です。

今号では、ゆだねるための単元構成について叫びました。次回は、ゆだねるための「子どもの思考」について叫びます。



## みんなで楽しく学ぼう! 先生たちの勉強の場(今年で8年目)紹介! 社会科を中心とした、子どもが主役の学びを創造し合う場。それが「北学場(きたまなば)」



参加費 無料!

遅刻・早退 OK! 事前申し込みも不要!

北学場 <連絡先> 大滝 文平  
kitamanaba@gmail.com

横浜市北部(青葉区、都筑区、緑区、港北区)の社会科有志が中心となって発足した、緩やかなお勉強の場です。発足して8年目になりますが、今では横浜市・市外の初任者をはじめ、経験の浅い先生、中

堅・ベテランの先生、管理職やOBの先生などなど、あらゆる立場の先生方がフラットな関係で、ざっくばらんに語り合っています。ご興味があれば、ご連絡(メール)をいただくと案内チラシを送らせていただきます。





# YUKIKOの部屋

Check point!



**Q** 子どもの思いに寄り添った取材先を見つけないかな？  
どうやって見つけるの？

**A**

「子どもの思いに寄り添っていききたい」と考えていることがすばらしいです！まずは、学習指導要領の内容と照らし合わせて、学ぶポイントをつかみながら自分なりに調べてみましょう。単元にもよりますが、まちを歩いたり、インターネットで調べたり、先輩の先生に教わったりするなど、方法は様々です。vol. 06にはヒントがいっぱい載せてあります。

そして、子どもの思いに寄り添うためのポイントは、取材中（インタビューも含む）に「あの子はこれを見て聞いてどんなことを考えるのかな」「きっとあの子はこんな反応をしそうだな」など、常に目の前の子を思い浮かべながら取材をすること、これに尽きると思います。



**Q** 例年通りの取材相手、マニュアル通りの質問。  
本当にこのままでいいのかな？

**A**

一方的にこちらの思いばかりで失礼にならないよう、取材する方にも仕事などがある、私たちのために時間をつくってくださっているということを決して忘れないことが大事です。もし学校で毎年行っているならば、昨年までの情報は必ず把握しておいて重ならないようにしましょう。単元をつくるうえで大切なことは聞きたいですが、マニュアル通りになりすぎず、子どもが面白いと思いきような視点を持って聞いていきたいですね。

話をしていくと、その方が大切にされていることが見えてきます。私は、**社会科は人の考え方・生き方から、自分の考え方・生き方を考える学習**でもありと思っています。その人が大切にしていることは、**学習するときにも大切に**しましょう。

取材は緊張しますが、大人でも新しいことを知るの楽しいものです。ぜひ、**楽しみながら、取材**するようにしましょう！



(横浜市立本牧小学校 武藤 由希子)



「楽しい学び de クラスをつくる」では、  
みなさんからの質問をお待ちしています！  
<連絡先:北学場> kitamanaba@gmail.com



※本冊子に掲載しているイラストはすべてイメージです。

楽しい学び de クラスをつくる (vol.06)

日文教授用資料  
令和6年(2024年)12月12日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社  
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5  
TEL: 06-6692-1261  
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33757

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5  
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16  
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14  
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵 1-13-18-7F-B  
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1  
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690